

樂與善友

創立80周年記念誌

九州大学仏教青年会

I 本会の創立と発展

本会は、明治40年5月19日（旧暦4月8日＝釈尊降誕日）、福岡市東中洲共進館にて産声を上げた。発会当初は京都帝国大学福岡医科大学仏教青年会と称した。これは九大が京都帝国大学の一分校として設立され、京都帝国大学福岡医科大学と称されていたからである。当時は、主として医科大学の教官、学生、看護婦、患者等により組織され、社会福祉奉仕活動を通して仏教精神を学ぶを旨とし、主な活動は釈尊降誕会、夏期（仏教）講習会、信仰座談会等であった。明治44年学制改革に伴い医科大学は九州帝国大学と改称され、本会も九州帝国大学仏教青年会と名を改めた。大正7年、本会は会長制度をとることになり、初代会長に旭憲吉博士（医学部皮膚科教授）が就任した。旭会長の熱意と行動力は、施療院開設、本会の法人組織認可、会館設立等、一連の会の基礎を築く事業の達成に大きな力となった。即ちまず同年8月、福岡市内承天寺祥勝院に施療院を開設、これにより恒常的な医療福祉活動が可能になった。次に、大正10年、本会は社団法人に認可された。さらに、本会活動が振興するにつれ活動拠点として会館建設の必要性が痛感されていた為、大正10年5月、福岡市今泉字金田（現在の渡辺通り4丁目8番地）に土地423坪を購入、大正15年3月竣工、本館及び寄宿舍合わせて建坪203坪の会館が完成した。この会館にて施療院は勿論、その他一切の事業は行われ、寄宿舍には会の中堅となるべき学生を収めた。昭和5年、旭会長は惜しくも逝去、以後本会は理事制度をとる事になり、常務理事の干潟龍祥文学部教授を中心に、戦前・戦中の多難な時期を歩んでゆくこととなったのである。

1-1 会の創立



1 京都帝国大学福岡医科大学仏教青年会発足式（明治40年）於 東中洲共進館



2 祥勝院に開設された施療院での診療風景（大正8年）中央右側 旭博士



3 九州帝国大学仏教青年会施療院開設1周年記念（大正8年）



4 施療院発祥の地、祥勝院の現在の様子（昭和52年）



5 現在の祥勝院（昭和52年）